



「北の杜3つの最重点課題」に思う 校長 宮下 誉夫



7年ぶりに本校に戻りました。HPの校長挨拶にも書きましたが、しっかり挨拶ができる生徒が、多くなったことが嬉しい驚きでした。

さて、本校HPや学校要覧の中に、「北の杜3つの最重点課題」(①学びの創造、②自己指導力の醸成、③学校と家庭・地域との協働)が掲げられています。これまでの過去10年間分の学校要覧に目を通しましたが、その内容は毎年度同じものでした。学校評価等には、「北の杜3つの最重点課題」への具体的なアプローチや取組は記載されていますが、残念ながら体系化された形になっていません。

本校の特色は、まず旧峡北3校の伝統や時代のニーズに基づいた教育課程を備えた普通科と総合学科が併設されていることです。全国・関東大会にも多く出場するような部活動も多く、他校にはない部活動が本校への志望動機である生徒もいます。また、地元北杜市との包括的連携協定に象徴される地域との結びつきを深めるための取組も推進しています。

このような特色や教育資源を活用し、「北の杜3つの最重点課題」に対応するためには、きめ細かい学習・生徒指導をさらに体系化し、人事異動で先生方が異動しても変わることのない教育の質を維持し、本校の魅力や生徒の様子を校内外にもっと知らしめることでないでしょうか。そのためには我々教職員一人一人が同じ方向を向き、課題に取り組むことが大事だと考えます。私は教職員には常に課題意識を持つようにと伝えております。

先月の第16回北嶺祭では、本校生徒の躍動感や達成感のある姿に大いに感動いたしました。これは17年間の本校の教育活動の成果です。さらに手をかけて、「地域に根ざし、地域に愛される、通いたい学校、通わせたい学校」を目指したいと考えています。

平成31年度 前期入試情報

- (1) 募集定員に対する募集率
普通科30%以内(理数コースも同様)
総合学科40%以内
- (2) 出願の条件
 - ①条件A 志願してほしい生徒像に一致し、中学校の学習活動において優れた成績を修め、入学後も継続して努力できる者。
 - ②条件B 志願してほしい生徒像に一致するとともに、スポーツまたは文化活動において顕著な実績を有し、入学後も継続して意欲的に活動する意志がある者。
- (3) 選抜資料比重

区分	調査書	面接	所見	特色適性検査	特技	個性表現	備考
普通科条件A	45	30	5	20	-	-	
総合学科条件A	45	30	5	20	-	-	
普通科条件B	35	20	5	-	20	20	前期募集定員の2/5程度
総合学科条件B	35	20	5	-	20	20	前期募集定員の2/5程度

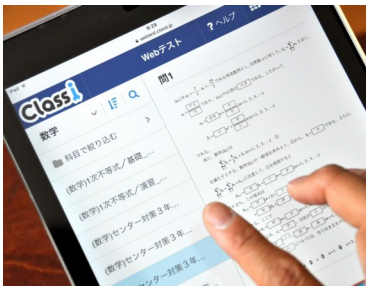
※調査書の「学習の記録」「特別活動の記録」等については第1学年から第3学年までを対象とし、「学習の記録」については、各学年の成績を平等に評価し、国語、社会、数学、理科、英語については評定をそれぞれ2倍、その他の教科の評定を1倍する。

普通科の紹介①



普通科は、大学進学を中心とする幅広い進路選択に対応するカリキュラムを備え、小人数教育を含め、きめ細かな指導を行っています。山梨大学をはじめとする県内国公立大学はもとより、筑波大学、横浜市立大学など県外の難関大学へも合格者を出しています。昨年度の卒業生は、約70%が大学・短期大学への進路を選択し、専門学校進学も含めるとほとんどの生徒が上級学校への進路に進んでいます。

理数コースでは2年前から活用してきたICT教育ツール「Classi」を、今年の新入生からは普通科全体で運用しています。教材配信で家庭学習をサポートするほか、学習履歴を蓄積するなど、2020年から始まる新しい入試に対応するためのツールとしても活用しています。また、普通科文系コースでは選択科目として「中国語」や「観光ビジネス」など総合学科の講座を受講することもできます。大学進学を見据えて学力を伸ばし、幅広い視野を身につけることができる学科です。(普通科主任 井上ひろみ)



自転車安全推進校として

本校周辺の交通事情は決して便が良いとは言えません。そこで本校では、原付免許の取得や条件付ではありますが原付バイクの通学を許可制で認めています。さらに部活動も盛んで、ここ数年トレーニングも兼ねた自転車通学者が増えてきました。自転車に関しては昨年度3件の事故が発生しました。通学者が原付バイクに比べて少ない中での3件ですので、高い事故発生率となりました。

今年度本校は、北杜警察所管内の「自転車安全利用推進校」に指定されました。5月25日(金)の交通安全講話に先立ち、北杜警察署 交通課長の原口洋輔様から自転車安全推進委員のリーダーとして、生徒会長の青柳柊君に指定書が渡されました。他の生徒会役員が委員となり、原付バイクも含めた交通ルールの遵守、マナーの向上を図っていくことになりました。今まで以上に違反や事故を起こさないように、啓蒙活動に取り組んでいきたいと思ひます。保護者の皆様も、送迎時や通勤時にハットするような場面があると思ひます。また、このような機会を通じて保護者の皆様も車の運転などを振り返っていただきたいと思ひます。

(生徒指導主事 中込俊二)



生物資源系列

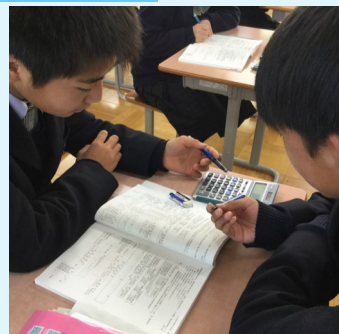
生物資源系列は、作物生産の実践を通して農業の社会的な意義・役割や、食と農に関する基礎基本を学習します。資格取得に関しては、国家資格である装飾園芸技能士、フラワー装飾技能士、民間資格ではMOS検定の資格取得が可能です。また、高校で学んだ農業の知識を確認する目的で、系列生徒全員が日本農業技術検定の資格取得にチャレンジしています。系列必修科目は、2年次では「農業と環境」でスイカとハクサイの栽培をし、調査などをしながら、プロジェクト学習の基本を学び、3年次では2年次からの継続履修で、「草花」「野菜」「果樹」の更なる専門的な知識や技能を身につけます。

自由選択科目では、栽培から食品加工までを一環教育する「食品製造」、生花を使用して多彩にデザインする「フラワーデザイン」、地域の小学生と農業体験を共にし、コミュニケーション能力を育む「グリーンライフ」、様々な角度から生物を活用する「生物活用」など、幅広く農業の学習をすることができます。また、地域還元として、栽培した農作物を販売する実習や、各地域に花の植花活動も行っており、地域とのつながりも大切にしています。こうした様々な活動を通して、学習の根幹である「生きる力」を育てています。



系列の紹介①

総合情報ビジネス系列



総合情報ビジネス系列は、自分の進路に合わせた科目を学び、簿記会計の知識、情報活用能力やマーケティング活用能力などを身に付けます。有資格や学科枠特別推薦入試を活用し、経済・経営・商学系の難関大学への進学や、地域のニーズにあった生徒の育成を目指しています。

また資格取得にも力を入れており、平成29年度は全商1級6種目が4人、5種目が6人、4種目が3人、3種目が4人と毎年多くの生徒が3冠以上の検定取得をしています。多くの先輩たちが日々の授業を大切に、放課後など目標に向けて文武両道で頑張っています。さらに、山梨県高等学校商業実務競技大会に出場し、電卓の部では団体優勝をするなど個人や団体の部でも全国大会にも出場しています。また、北杜市活性化に向けて取り組みを計画、実践する中で地域の実態を知るとともに多くの人との「つながり」を大切にしています。

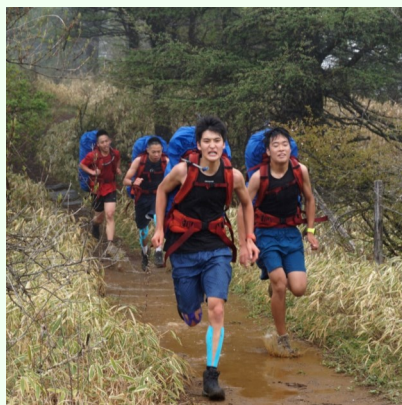


インターハイ出場 スキー山岳部

3年 長嶺 武

『タイムレースはトップで通過しないとインターハイは難しい。』と顧問の山本先生に言われていた。毎日のトレーニングにプラスし重いリュックを背負ってのトレーニングを毎週末に導入した。現地に入り何度も試走をおこなった。コースは簡単ではなかったが、チーム4人で声を掛け合いながら協力し、総体ではタイムレースをトップで通過出来た。どんな時もポジティブに楽しく山を歩くことが目標でもあった。総体の2日目は天候が急変し、激しい雨、雷、ひょうが降りコースが変更された。天候に負けていたら2連覇の目標は達成できないと思い必死にチーム内で声を掛け合った。とても苦しい状況の中での山行動だったが、諦めなくて本当に良かったと思った。

2連覇という目標とインターハイへの切符を手に入れた私たちにはたくさんのサポートがあった。先生方をはじめとする関係者の皆さんには感謝し、8月に三重でおこなわれるインターハイでもがんばりたい。



陸上部 関東大会出場

3年 増田 国光

私たち陸上競技部は、関東大会出場を目標に日々練習を積み重ねてきました。24人という決して多くはない部員での活動ですが、切磋琢磨し合い目標に向けて努力をしてきました。

短距離ブロックは、昨年も関東大会の出場を目指していましたが、総体・選手権・新人戦ともにあと一步という所で逃してきました。そのため、今年の総体で関東大会が決まったときは、私自身が想像した以上の嬉しさがありました。スタンドで声を枯らして応援してくれた部員や支えてくれた先輩など多くの支えてくれた人に恩返しすることが出来て本当にうれしかったです。

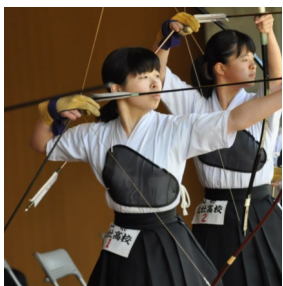
今まで辛い練習や夏合宿、部内で揉めたこともありましたが、みんなで乗り越えたからこそ、ここまで強くなることができました。そして、どの部活にも負けないぐらいの強い絆が生まれました。部員みんなに感謝しています。ありがとうございました。



最後の総体

3年 藤盛 瑞穂

高校総体当日までの練習の日々、部員全員が必死になって練習に取り組んでいた。顧問の先生方の指導を受け、どうしたら本番で自身のよい射ができるのか自分たちでよく考えた。試合当日までの練習は、まさに苦闘の日々だった。そして試合当日、誰もが集中した面持ちで試合に臨んだ。そんな中で私は、初日は調子が良いとは言えなかったが、後輩たちに助けられ二日目の競技に残ることができた。今度こそ私がチームをリードする番だと思い、一日目の競技が終わってすぐ、試合会場から学校へ戻り皆で練習した。改めて自分たちの試合を振り返り、できなかったことは何か、克服すべき弱さを見つめ直した。その甲斐あってか、二日目の予選3回戦を経て、どうにか決勝トーナメントに進むことができた。トーナメントでは勝ち上がっていくうちに、緊張や焦りが出てきたが、自分のやるべきことに集中し、部の仲間、顧問の先生方への感謝を胸に精一杯弓を引くことができた。結果は準優勝。優勝という形で周りに恩返しをしたかったのだが、力が足りなかった。この大会を通じて、自分たちの練習に間違いはないという自信と、あと一步踏み込んで自分を高めるといった課題を見つけることができた。私たち3年生に残された部活動の時間はわずかだが、悔いが残らないようやり通したい。



総体を振り返って

2年 清水 蓮

今回の高校総体では、私の目標であった関東大会出場を達成することができて良かったです。総体本番では、試合前まで悪かった調子を自分自身の中で、修正し自己新記録を出せました。しかし、試合前までの自分自身の不安定さが弱さにつながることを改めて感じる事ができました。今後、細部に至るまで徹底する意識を持ち、他の選手より劣っている部分を改善していきたいです。

関東大会へ出場することは、山梨県代表選手であり、学校の代表であるということです。また、指導をしていただいている外部講師の先生や顧問の先生、応援してくれている保護者、友人への感謝の気持ちを忘れずに、今ここにいることが当たり前でないと自覚し、関東大会3位入賞を目指し全力を尽くしてきます。



『新たな経験』

3年 秋山 一真

私たち美術部は昨年度に引き続き、今年度も星野リゾート・リゾートレハケ岳さんでの花の回廊の作成に携わせて頂きました。今回は私と2年生のデザインが2種類選ばれ、自分が考案したデザインが多くの人々の目を楽しませることができて大変光栄でした。作業の途中で問題が生じましたが、部員全員で協力し臨機応変に対処ができました。このような貴重な機会を与えてくださったリゾートレハケ岳の関係者の皆さん、協力してくれた部員、先生方ありがとうございました。



次世代に伝える(芸術鑑賞会より)

3年 圓山 樹輝

今、私たちがごく普通に生活できているのは、昔の人が命をかけて戦ってくれたお陰である。私は芸術鑑賞会でこう思った。

日本で戦争がおきていた時代の「特攻隊」の存在。自分なら、自らの命を犠牲にしてまで突っ込むことは出来ない。それどころか、突っ込む前の心情すら想像できない。そんな中で特攻隊の人達は心の中にある様々な感情を押し殺して上からの強制的な命令に従って戦った。

特攻の人達のことを考えると、普通の生活が出来ている自分たちは一生懸命に生きなければならない。命令に何でも従うべきだとは思わないが、人のことをまず考え、行動することは大切だ。それによって周りの人が自分を助けてくれる。このことに今回気づかされた。性格上、人見知り一人で悩みを抱え込んでしまうため、特攻隊の生き様から学んだこと(人のためになることを考えて行動する)を自分の人生のモットーとして一日一日を過ごしていきたい。そして次世代に特攻隊の存在を伝え、全ての人々と生きることがどれだけ幸せか再確認したい。



北嶺祭を終えて

生徒会長 青柳 柊

生徒会最大の行事である北嶺祭。今年も北嶺祭を成功させることができ、達成感と安堵感でいっぱいです。

北嶺祭の準備は半年前から始まります。昨年度のアンケートをもとに生徒会で話し合い、3月の生徒総会で生徒の意見を聞きながら北嶺祭のペースが決まります。全校生徒の皆さんが楽しく充実したと思える学園祭をつくりあげるため、生徒会の仲間と意見を出し合い、時には口論になることもありました。しかし、学園祭を成功させるため、何度も何度も話し合い、問題を解決してきました。

また、学園祭をつくりあげていく中で気づいたこともありました。それは、一般生徒をはじめサポートして下さる先生方とのコミュニケーションが非常に大事だということです。学園祭は全校生徒や先生方、つまり北杜高校全体でつくりあげていくものなのだ改めて感じました。閉祭式の最後の挨拶で、舞台の上から生徒皆さんの満足そうな笑顔を見て、私は、生徒会が取り組んできたことは間違っていないのだと思いました。全校生徒の皆さん、先生方、本当にありがとうございました。



学校林実習

2年 胤森 瑠璃

何をやるのだろうとときどきしながら向かった学校林実習。待っていたのはまだ6月上旬だというのに蝉の音が鳴り響く広大な森林だった。主な作業は班ごとに枯れた木や巻き付いたつるを切る。つる切り・除伐・間伐と言い、林内に光を入れることで森林をよい状態に保つために行うそう。私たちの班は女子だけだったが、ある時は一人である時は協力しながら伐採していった。交代しながら樹齢三十年に近い木を切り倒した時は、嬉しさと共に敬意の念が込み上げた。最初は不安だったが、移動中も含めとても楽しい時間を友人や先生と味わえた。また、人間が自然に手を入れることの大切さを知り、周りの山々や森林に対する見方が変わった貴重な体験だった。

